

令和2年 第5回

# 戸田市教育委員会定例会

令和2年5月19日（火）午前9時30分

戸田市役所3階教育委員室

戸田市教育委員会

# 第5回教育委員会（定例会）次第

## 1 開会

## 2 報告事項 別添 資料No.1 のとおり

## 3 議事

ページ

### (1) 専決処理事項の報告

報告第7号 新型コロナウイルス感染症への対応について（第5報）……………当日配付

報告第8号 生涯学習課所管施設の臨時休館について…………… 1

### (2) 議案

議案第20号 令和2年度一般会計教育委員会関係6月補正予算（案）について

…………… 8

## 4 その他

### (1) 次回の教育委員会の日程（案）

令和2年6月18日（木）午前9時30分～

### (2) その他

## 5 閉 会

戸教学第470号  
令和2年5月15日

戸田市立各小・中学校長 様

戸田市教育委員会  
教育長 戸ヶ崎 勤

新型コロナウイルス感染症への対応について（第五報）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために御尽力いただいていることに感謝いたします。

さて、これまで、学校再開に向けて準備を進めていただいているところですが、この度の臨時休業の延長に伴い、授業時数の確保のため、令和2年度に限り戸田市立小・中学校管理規則（昭和32年教育委員会規則第2号）第3条（6）（7）の夏季休業日、冬季休業日を下記のとおり変更する予定です。

なお、令和2年5月15日（金）時点のものであり、6月1日（月）より学校再開を前提としたものとなります。今後の状況に鑑み、変更がある場合には、改めて通知します。

記

1 入学式について

小学校 6月2日（火）

中学校 6月1日（月）

なお、詳細については、各学校の通知をお願いします。

2 戸田市立小・中学校管理規則第3条（6）の夏季休業日について

【変更前】

夏季休業日 7月21日から8月24日まで

【変更後】

夏季休業日 8月1日から8月20日まで

ただし、中学3年生については、8月1日から8月18日まで

3 戸田市立小・中学校管理規則第3条（7）の冬季休業日について

【変更前】

冬季休業日 12月25日から翌年1月7日まで

【変更後】

冬季休業日 12月26日から翌年1月6日まで

4 その他

○給食の開始について

当面は、配膳を必要としない簡易な給食を提供する予定です。

小学校の給食開始は令和2年6月4日（木）

中学校の給食開始は令和2年6月3日（水）

○各学校での授業時間数確保の対策について

各学校において、時間割の変更や土曜授業の実施などを行ってください。

なお、詳細については、各学校から保護者へ通知をお願いします。

○学校再開の留意事項等の詳細については、別途通知いたします。

担当：学務課  
岩崎（375）

令和2年5月15日

戸田市立各小・中学校保護者 様

戸田市教育委員会

### 新型コロナウイルス感染症への対応について（第五報）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。

この度の臨時休業の延長に伴い授業時数の確保のため、令和2年度に限り夏季休業日、冬季休業日を下記のとおり変更する予定です。

つきましては、本趣旨を御理解の上、御協力くださいますようお願いいたします。

なお、令和2年5月15日（金）時点のものであり、6月1日（月）より学校再開を前提としたものとなります。学校再開の授業の形態や行い方については、今後の感染の状況や国や県の動向を踏まえ、変更がある場合には、改めて通知します。

### 記

#### 1 入学式について

小学校 6月2日（火）

中学校 6月1日（月）

なお、詳細については、各学校の通知を御覧ください。

#### 2 夏季休業日について

夏季休業日 8月1日（土）から8月20日（木）まで

ただし、中学3年生については、8月1日（土）から8月18日（火）まで

#### 3 冬季休業日について

冬季休業日 12月26日（土）から翌年1月6日（水）まで

#### 4 その他

##### ○給食の開始について

当面は、配膳を必要としない簡易な給食を提供する予定です。

小学校の給食開始は令和2年6月4日（木）

中学校の給食開始は令和2年6月3日（水）

##### ○各学校での授業時間数確保の対策について

各学校において、時間割の変更や土曜授業の実施等を行います。

なお、詳細については、各学校からお知らせします。

##### ○学校再開の留意事項等の詳細については、別途通知いたします。

# 生涯学習課所管施設の臨時休館について

## 戸田市立図書館の臨時休館の継続について

### 1 臨時休館期間

変更前 令和2年4月11日（土）から5月6日（水）まで

変更後 令和2年4月11日（土）から5月15日（金）まで

再変更後 令和2年4月11日（土）から5月31日（日）まで

### 2 理由等

戸田市立図書館については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、図書館利用者の健康被害を防ぐ観点から、図書館全館を臨時休館としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休館の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

○戸田市立図書館条例～抜粋～

（休館日）

第6条 図書館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めたときは、これを臨時に変更し、又は定めることができる。

区分	休館日
戸田市立中央図書館、戸田市立図書館下戸田分室及び戸田市立図書館美笹分室	(1) 毎月の第2月曜日、第4月曜日及び第5月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。） (2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで (3) 館内整理日（毎月末日。ただし、その日が

	<p>日曜日、土曜日又は休日である場合を除く。 以下同じ。)</p> <p>(4) 特別整理期間(毎年1回15日以内で教育委員会が定める日。以下同じ。)</p>
戸田市立図書館上戸田分館	<p>(1) 毎月の第3月曜日(その日が休日である場合を除く。)</p> <p>(2) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで</p> <p>(3) 館内整理日</p> <p>(4) 特別整理期間</p>
戸田市立図書館下戸田南分室	<p>(1) 毎月の第1火曜日、第3火曜日及び第5火曜日(その日が休日である場合を除く。)</p> <p>(2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで</p> <p>(3) 館内整理日</p> <p>(4) 特別整理期間</p>
戸田市立図書館戸田公園駅前配本所	<p>(1) 戸田市行政センター条例(平成22年条例第1号)第7条の表アの項に規定する戸田市戸田公園駅前出張所の休所日</p> <p>(2) 特別整理期間</p>

## 図書館サービスの一部再開について

戸田市立図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月11日(土曜)から5月31日(日曜)まで全館を臨時休館することとしていたが、政府の基本的対処方針や埼玉県における図書館の一部緩和措置を踏まえ、5月20日(水曜)から以下の施設で開館時間を変更の上、一部サービスを再開する。

### 1 再開日

令和2年5月20日(水曜)から

### 2 対象施設・開館時間

#### (1) 戸田市立中央図書館(1階ロビーに特設窓口を設置)

午前9時～午後6時(第2、4、5月曜日及び月末日は休館)

#### 【参考】通常の開館時間

- ・月～金曜日 午前9時～午後8時
- ・土・日曜日、祝日 午前9時～午後6時

#### (2) 戸田公園駅前配本所(戸田公園駅前行政センター内)

- ・月～金曜日 正午～午後8時
- ・土・日曜日、祝日 午前9時～午後5時30分

→戸田公園駅前出張所が、5月7日から平日の開所時刻を変更しているため

#### 【参考】通常の開館時間

- ・月～金曜日 午前8時30分～午後8時
- ・土・日曜日、祝日 午前9時～午後5時30分

※上戸田分館(上戸田地域交流センター内)・下戸田分室(東部福祉センター内)・美笹分室(西部福祉センター内)・下戸田南分室(障害者福祉会館内)は、引き続き臨時休館とする。

### 3 サービス内容

- (1) 5月20日（水曜）～5月25日（月曜）
  - ・予約した資料の受け取り
  - ・資料の返却（図書館全館、JR3駅の返却ポストも利用可）
  
- (2) 5月26日（火曜）～当面の間
  - ・予約した資料の受け取り
  - ・資料の返却（図書館全館、JR3駅の返却ポストも利用可）
  - ・資料の予約・リクエスト

### 4 感染防止対策

- (1) 密閉・密集・密接を避けるための対応
  - ・密閉した空間を作らないため、施設の換気に努める。
  - ・密集しないように、窓口に並ぶ際にはソーシャルディスタンス（人と人との距離）を十分にとれるよう工夫する。
  - ・密接しないよう、短時間での窓口を心掛ける。
  - ・窓口に飛沫対策のビニールシート等を設置する。
  
- (2) 接触感染リスクへの対応
  - ・来館者が使用できる手・指消毒液を設置する。
  - ・返却された図書等は感染リスクを軽減するために、翌々日以降に書棚に戻す。
  
- (3) 図書館職員の衛生対策
  - ・マスクを着用し、体調管理に努める。
  - ・手洗い・咳エチケット等を積極的に行い、またその啓発に努める。
  
- (4) 来館者への事前周知
  - ・発熱や風邪症状のある方には来館をご遠慮いただく。
  - ・マスクの着用をお願いする。
  - ・来館者の分散化を図るため、貸出券番号の末尾が「偶数」の方は「偶数日」に、「奇数」の方は「奇数日」に来館いただくようお願いする。
  - ・1家族につき1名での来館をお願いする。
  - ・混雑状況により入館制限をさせていただくことがある。

## 戸田市立郷土博物館の臨時休館の継続について

### 1 臨時休館期間

変更前	令和2年4月1日（水）から5月6日（水）まで
変更後	令和2年4月1日（水）から5月15日（金）まで
再変更後	令和2年4月1日（水）から5月31日（日）まで

### 2 理由等

当該施設については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、施設利用者の健康被害を防ぐ観点から臨時休館としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休館の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

（参考）戸田市立郷土博物館条例 ～抜粋～

（休館日）

第6条 郷土博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎月の第2月曜日、第4月曜日及び第5月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。
- (2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで
- (3) 館内整理日（毎月末日。ただし、その日が日曜日、土曜日又は休日である場合を除く。
- (4) 特別整理期間（毎年1回15日以内）
- (5) その他教育委員会が必要と認めた日

## 彩湖自然学習センター（みどりパル）の臨時休館の継続について

### 1 臨時休館期間

変更前	令和2年3月4日（水）から5月6日（水）まで
変更後	令和2年3月4日（水）から5月15日（金）まで
再変更後	令和2年3月4日（水）から5月31日（日）まで

### 2 理由等

当該施設については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、施設利用者の健康被害を防ぐ観点から臨時休館としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休館の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

（参考）戸田市立郷土博物館条例 ～抜粋～

（休館日）

第6条 郷土博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎月の第2月曜日、第4月曜日及び第5月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に規定する休日（以下「休日」という。）である場合を除く。）
- (2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで
- (3) 館内整理日（毎月末日。ただし、その日が日曜日、土曜日又は休日である場合を除く。）
- (4) 特別整理期間（毎年1回15日以内）
- (5) その他教育委員会が必要と認めた日

## 戸田市立少年自然の家の臨時休所の継続について

### 1 臨時休所期間

変更前	令和2年3月4日（水）から5月6日（水）まで
変更後	令和2年3月4日（水）から5月15日（金）まで
再変更後	令和2年3月4日（水）から5月31日（日）まで

### 2 理由等

当該施設については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、施設利用者の健康被害を防ぐ観点から臨時休所としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休所の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

### 3 参考

#### (1) 戸田市立少年自然の家条例 ～抜粋～

(休所日)

第4条 少年自然の家の休所日は、次のとおりとする。

(1) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで

(2) その他戸田市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認めた日

#### (2) 平成28年4月1日付け締結戸田市立少年自然の家指定管理者基本協定書

戸田市立少年自然の家指定管理者制度業務仕様書 ～抜粋～

#### 4 休所日

(1) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで

(2) その他教育委員会が必要と認めた日

## 公民館の臨時休館の継続について

### 1 臨時休館期間

変更前	令和2年4月11日（土）から5月6日（水）まで
変更後	令和2年4月11日（土）から5月15日（金）まで
再変更後	令和2年4月11日（土）から5月31日（日）まで

### 2 理由等

当該施設については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、施設利用者の健康被害を防ぐ観点から臨時休館としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休館の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

### 3 対象施設名 下戸田公民館・美笹公民館・新曾公民館

(参考) 戸田市公民館条例 ～抜粋～

(休館日)

第6条 公民館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 毎月の第2月曜日、第4月曜日及び第5月曜日（その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第3条に規定する休日である場合を除く。)
- (2) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで
- (3) その他教育委員会が必要と認めた日

## 芦原小学校生涯学習施設の臨時休館の継続について

### 1 臨時休館期間

変更前	令和2年3月4日（水）から5月6日（水）まで
変更後	令和2年3月4日（水）から5月15日（金）まで
再変更後	令和2年3月4日（水）から5月31日（日）まで

### 2 理 由 等

芦原小学校内にある当該施設については、新型コロナウイルスの確実かつ効果的な感染防止策を講じ、施設利用者の健康被害を防ぐ観点から臨時休館としていたが、第10回新型コロナウイルス対策本部会議（以下「本部会議」という。）において、5月15日まで休館の継続が決定され、さらに、第12回本部会議において、5月31日まで継続が決定されたため。

（参考）戸田市立芦原小学校生涯学習施設運営要綱 ～抜粋～

（休館日）

第4条 施設の休館日は、次のとおりとする。

(1) 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで

(2) その他教育委員会が必要と認めた日

# 報告事項

令和2年第5回教育委員会(定例会)

令和2年5月19日(火)

戸田市役所3階 教育委員室

# 1 報告事項

ページ

- ① 「令和2年度 指導の重点・主な施策」について……………別紙  
(教育政策室)
- ② 「令和元年度 戸田市教育研究集録」について……………別紙  
(教育政策室)
- ③ 令和2年度市研究指定等委嘱校 学校研究主題一覧について……………1  
(教育政策室)
- ④ 中学校の休業中における学習の確保について……………  
(各中学校)
- ⑤ 市内中学校の生徒指導案件について……………当日配付  
(教育政策室)
- ⑥ その他

令和2年度

# 指導の重点・主な施策

とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を



戸田市教育委員会



## 指導の重点・主な施策について

新学習指導要領が今年度から小学校で全面実施となった。中学校においては令和3年度に全面実施となる。これまでも育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、これからの時代に求められる子供たちが身に付けるべき資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で再整理された。こうした資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要であり、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善をさらに充実させていくことが重要である。

戸田市教育委員会では、「戸田市の教育振興に関する大綱」（平成28年4月策定）及び「第3次戸田市教育振興計画」（平成28～令和2年度）を基盤に、国や県の動向や各学校の実態を踏まえ、新学習指導要領への移行が確実かつ円滑に実施できるようにするとともに、これからの変化の激しい時代を生き抜くための力を子供たちに身に付けられるよう、各施策を実施する。

この「指導の重点・主な施策」は、各学校で行う教育活動の指針を編集したものである。各学校においては、自校の実態に即して本冊子を十分に活用し、令和2年度の指導の重点を明確にし、学校教育の充実を図りたい。

### 第3次戸田市教育振興計画

**基本理念：**生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田

**キャッチフレーズ：**とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を

**基本目標1：**やり抜く力を育む教育を推進する～確かな学力と生徒指導の充実を図る～

1 確かな学力の育成 2 豊かな心の育成 3 健やかな体の育成 4 国際社会で活躍できる人材の育成

**基本目標2：**よりよい教育環境を整備する～産官学民及び家庭・地域と連携し、知のリソースの活用を図る～

1 新しい学びの創造 2 教員の資質向上・支援 3 学校施設・設備の充実 4 特別支援教育の充実

**目指す児童生徒「とだっ子」像**

希望をもち、思いやり、未来を拓くため 最後までやり抜く児童生徒

### 令和2年度 戸田市立小・中学校における標準授業時数について

〈小学校〉

	各 教 科									特別の教科である 道徳	外国語 (英語) 活動	外国語 (英語)	総合的な学習 の時間	特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306	*	136	*	102	68	68	*	102	34	*	*	*	34	850
第2学年	315	*	175	*	105	70	70	*	105	35	*	*	*	35	910
第3学年	245	70	175	90	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	980
第4学年	245	90	175	105	*	60	60	*	105	35	70	*	35	35	1015
第5学年	175	100	175	105	*	50	50	60	90	35	*	70	70	35	1015
第6学年	175	105	175	105	*	50	50	55	90	35	*	70	70	35	1015

〈中学校〉

	各 教 科									特別の教科である 道徳	総合的な学習 の時間	特別 活動	総授業 時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語 (英語)				
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	50	35	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	70	35	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	70	35	1015

#### ※小学校中学年における外国語（英語）活動の実施について

本市全小学校は、中学年の「総合的な学習の時間」を35時間削減し、外国語（英語）活動を35時間実施することが可能となっている。これは、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の教育課程の編成・実施を可能とする特例校（教育課程特例校）（令和2年1月22日 文部科学大臣承認）となっていることに基づくものである（期間は、次期教育課程変更日まで）。

#### ※小学校新学習指導要領における外国語（英語）活動及び外国語（英語）科への短時間学習の導入について

本市の中学年の外国語（英語）活動については、平成15年度から35時間実施しているが、さらなる英語教育の充実を図るために35時間増とし、合計70時間とする。中学年、高学年の35時間分の実施方法については、15分間の短時間学習を3回行うことにより1単位時間（45分間）に換算することとする。

なお、低学年については、余剰時間や短時間学習も含め20時間程度とする。

# アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック 2020

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

## 1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。 【目指すべき目標・評価規準の設定等】

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標が達成できているかを評価できる評価規準が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

## 2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。 【主に主体的な学びの視点】

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。(※1)
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまずいている児童生徒たちへの)支援方法を準備し、実行することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、適切な時間や場の設定・ワークシート等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の達成につながっていたか。

## 3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。 【主に対話的な学びの視点】

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(タブレットPC・ワークシート・具体物等)を工夫し用いていたか。
- 目標の達成につながるように児童生徒の考えを可視化(板書、ICT等を使って示すこと)できたか。(※2)

## 4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。 【主に深い学びの視点】

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。

## 5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、 学びの成果や課題を実感していたか。 【学びの評価・振り返り】

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 評価するための方法や場面を設定することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。(※3)

※1～3は、令和元年度達成率が低かった事項である。※1と※3は授業の根幹であるため、見通しと振り返りの時間を必ず設定することが不可欠である。※2は児童生徒が、自分の考えをもって話した結果をアウトプットし、考えを再構築することで深い学びにつなげる手立てである。

R01達成率	※1 小88%、中67%	※2 小54%、中34%	※3 小63%、中44%
R02目標値	※1 小中ともに90%	※2 小中ともに60%	※3 小中ともに70%

R01達成率の数値は、学校訪問で先生が自分の授業を評価したものである。

# 指導用ルーブリックに基づく授業づくりのポイントについて

～エビデンスに基づくグッドプラクティスの紹介～

本年度も、**埼玉県学力・学習状況調査**の結果及び**指導用ルーブリック**を活用して、児童生徒の学力を特に伸ばしている教師（小学校21名、中学校10名）へのインタビューを行った。質問事項としては、主に『①**児童生徒の学力を伸ばすために意識していることは何か**』と『②**支援を必要としている児童生徒への対応について**』である。以下は、インタビューの内容をまとめた、エビデンスに基づく、**効果的な指導方法（グッドプラクティス）**である。

## ◆児童生徒の学力の伸ばし方～エビデンスに基づくグッドプラクティス～

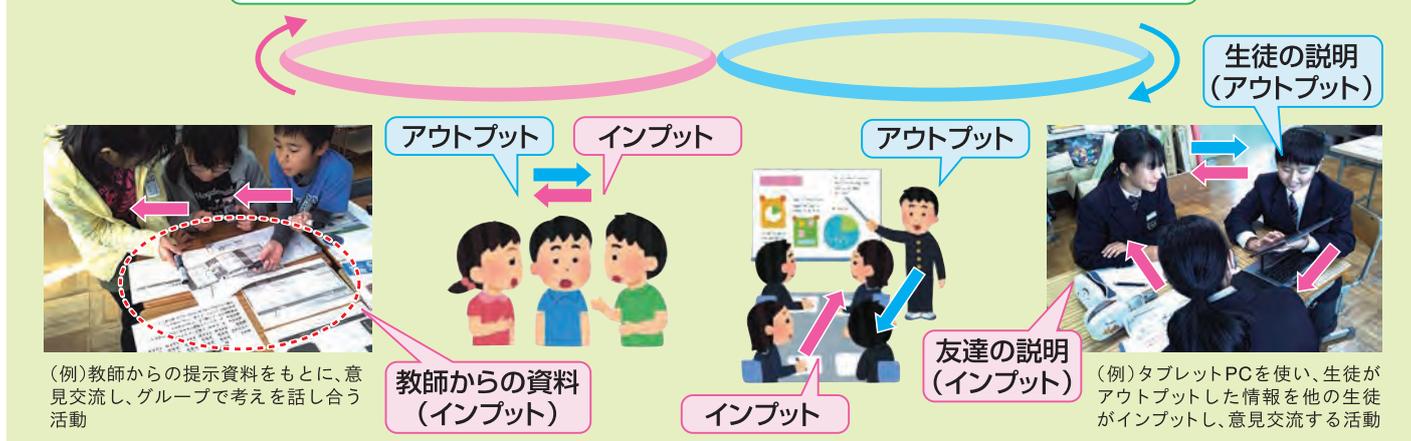
### 1 Output(アウトプット)とInput(インプット)の対流が生まれる授業づくり

主にルーブリック  
2～4に関わって

#### 授業の目標に近づくアウトプットを誘発するインプット

- ・期待するアウトプット（目標に近づく学びの姿）を見通し、**意図的・計画的な教材・資料**を提示する。
- ・**絵や図、表などからインプット**することが得意な児童生徒もいれば、**言葉（文章）からインプット**することが得意な児童生徒もいる（両方必要な児童生徒もいる）。**インプットしやすい特性**が違うので、個々の学習状況を教師は丁寧に把握していく。
- ・漠然と「何で?」「理由は?」と投げかけるだけではなく、**何をどのように考えればよいかを焦点化**し、児童生徒たち同士の「**インプットとアウトプットの対流**」をコーディネートする。

#### アウトプットとインプットの対流（繰り返し深まっていく）イメージ



#### アウトプットの焦点化①～思考を可視化させる発問～

アウトプットの目的	アウトプットさせるための教師の発問(例)	アウトプットされた児童生徒の考え
<b>手段・方法</b> を問う (HOW)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにして、～すればよいか説明しましょう。</li> <li>・どんな方法を使って調べればよいか、絵や図で説明しましょう。</li> </ul>	(例)～を用いて、…する。
<b>理由</b> を問う (WHY)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして～なのか、説明しましょう。</li> <li>・～のように考えた（書いた）理由を書きましょう。</li> </ul>	(例)～だから、…である。

#### アウトプットの焦点化②～「考えるための技法」の指導～

技法(例)	主な思考ツール	声かけの例
<b>比較する</b>	●マトリクス ●座標軸	～と…を比べると… ～の同じ(異なる)所は
<b>分類する</b>	●ベン図 ●くま手チャート	同じ仲間に分けましょう。(まとめると…)
<b>関連付ける</b>	●イメージマップ ●クラゲチャート	今までに習ったことと同じところは…

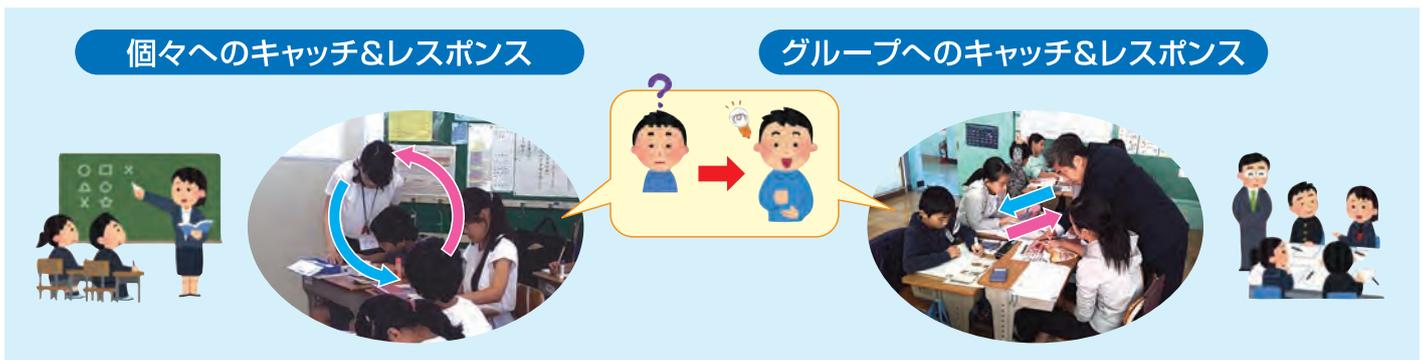
※考えるための方法：小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間(p 84、85)参照

## 2 Catch(キャッチ)& Response(レスポンス)による授業づくり

主にルーブリック  
1&5に関わって

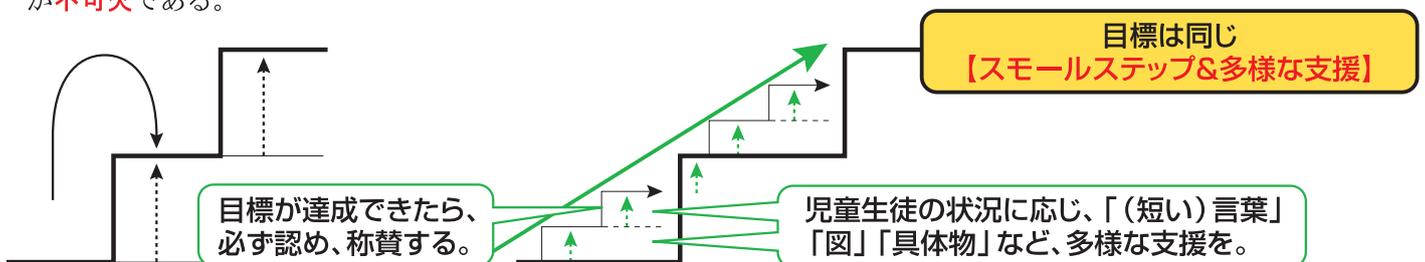
### Catch(キャッチ)& Response(レスポンス)による指導と評価の一体化

- ・目標に即し、子供たちの学習状況を捉え（**キャッチ**）、個々・グループ等への机間指導における声かけ（**レスポンス**）を充実させていく。
- ・目標の達成状況を把握するため、**授業の途中で**学習状況を評価したり、**授業の終末**に評価問題に取り組ませる場面を設定したりする。
- ・**評価内容・方法、タイミングは授業前**に設定する。B規準に達していない児童生徒には、単元を通じて必ず支援していく。（一人一人に寄り添った指導）



## 3 実態に応じたきめ細かな授業づくり【スモールステップ&多様な支援】

- ・児童生徒たちの学力を特に伸ばした**教師**は、支援が必要な子供たちに対して、事前に**ニーズに合った支援を準備**したり、必要に応じて**個に応じて支援**したりしていく。
- ・一人一人の学力を伸ばしていくためには、現状の学力や学習の状況を受け止め、**その子に寄り添い**指導していくことが**不可欠**である。



- ・【**柔軟な対応**】…個々の学力の実態、学習状況等に応じて、**課題を変えたり、支援方法を変えたり**しながら、全員が**目標を達成**できるよう導く。
- ・【**視覚化**】…教師の口頭のみでの説明だけでは理解するのが難しい児童生徒もいるため、大切なことは、「**口頭**」+「**板書**」で説明していく。また、文字だけでは理解しづらい子がいる場合には、**絵や図**（ときには**具体物**）なども取り入れて説明するよう心掛ける。

## 4 非認知能力の育成

- ・各学校の非認知能力育成プログラムに基づいて、一人一人が安心して学ぶことができるクラスづくりを日々心掛ける。
- プロセス(過程)を称賛**  
できたところやできるようになったところを先に伝え、**それまでの過程を褒め、自己有用感の向上**につなげていく。  
できないことがあることは当たり前であるという考えの下、課題克服のための方法を一緒に考えていく。
- 努力している過程の可視化**  
〇〇カードや学習シールなどを使って、目標達成までの過程を視覚化し、**どのくらい努力をすれば、自分はどのくらいのことが達成できるのか**自分の力を知ることにつなげていく。

# 戸田型PBL(プロジェクト型学習)の考え方2

## PBLの授業設計

### 目標の設定

児童生徒の実態やアンケート等をもとに、プロジェクト全体を通じて、子供にどのような力を身に付けたいかを明確にする。【例】KJ法等



子供に身に付けたい力を十分に検討し、設定する



### 評価の設定

#### 目標と指導と評価を結び付ける。目標—指導—評価

目標に準拠した評価や評価に基づいた指導について検討する。目標と指導、評価が一体化するように設定していく。【例】目標→戸田市のごみの減量化目標に対して、自分たちでできることを考え、家庭や地域に発信していくことを通して問題意識と目的をもって課題を追究する力を育てる。評価→戸田市のごみ問題について考えをもち、見直しをもって情報を収集したり、取捨選択したりして、自分なりの解決方法をもつ。

### プロセスの設定

#### ①課題の設定

児童生徒が課題を自分ごととして捉えられるようにすること

#### ②情報の収集

児童生徒が常に目標を意識して情報を収集できるようにすること

#### ③整理・分析

収集した情報から児童生徒が自分の考えをもつことができるようにすること

#### ④まとめ・表現

他者からの視点により、自分の考えた案をブラッシュアップしたり、新たな課題を見つけ出すことができるようにすること。これからの学習や生活に生かすために振り返るようにすること。



②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現を繰り返すことがポイント

### 発表会の企画

活動の成果をアウトプットする方法は多様であるが、子供たちが相手意識、目的意識をもって活動を意欲的に続けられることが重要。成果物を作成することだけが発表とは限らない。

#### 【発表会の企画例】

プレゼンテーションのポイント (プレゼンテーション大会上位入賞校の担当教諭 児童生徒の聞き取り調査より)

- ・児童生徒自身の体験活動を大切にすること。 ・児童生徒に考えさせる声かけをすること。
- ・フィードバックの回数を確保すること。

〈キーワード〉自分でできる解決法、自律した学習者の育成



平成31年度  
PBL関連資料

# 全体課題の設定 (プロジェクト名: 身の回りの課題を自分たちで解決しよう)

## ★ポイント

- ①身近に存在する課題
- ②児童生徒が貢献できる課題
- ③答えがすぐに見えない課題

## ★キーワード

- ①自分ごと 課題意識
- ②貢献意欲 他者意識
- ③好奇心 創造性

実生活  
実社会へ  
つながり



ワクワク感

## 実生活の課題解決の追究 (児童生徒の活動)

### 身近に存在する問題点を見つける

#### ①導入

自分たちの生活を振り返り、学校生活にはどのような問題点があるのか調べた。

#### ②情報収集・整理・分析

アンケートを取って、現状を把握することにした。アンケートを整理した結果、「トイレが汚い」という問題点が多かった。

#### ③まとめ・表現

「トイレが汚い」ことを解決すること、理由をデータを示して先生や友達に発表した。

### 問題点の原因を探る

#### ④課題設定

「トイレが汚い」という学校の問題点を解決するために「どうしたらよいか」という課題を設定した。

#### ⑤情報収集

トイレが汚れる原因を調べてみた。

#### ⑥整理・分析

トイレの清掃の様子と汚れる原因を分析した。

#### ⑦まとめ・表現

利用者の使い方がよくないと結論づけ、クラスで発表した。

### 解決策を実行する

#### ⑧課題設定

「トイレをきれいに使ってもらうためにはどうしたらよいか」という課題を改めて設定した。

#### ⑨情報収集

汚れる場所や日時、汚れの種類や利用者の行動等を調べた。

★清掃業者の人に話を聞く

#### ⑩整理・分析

汚れの原因を整理し、利用者の足を置く位置が原因だと分析した。

#### ⑪まとめ・表現

和式トイレの足を置く位置に目印となるマークを設置した。

## 実社会の課題解決の追究へ

#### ⑫振り返り

目印となるマークを設置した結果がどうだったかを振り返った。

#### ⑬課題の設定

学校の課題から地域に視点を広げ、公園のトイレをきれいに使ってもらうためにはどうしたらよいかという課題を設定した。

★みどり公園課の人に話を聞く

## 教師の役割と児童生徒への声かけ (例)

### 導入 ①

- 自分ごととしてとらえられるよう、十分な情報を与えるとともに魅力的な導入場面を設定する。
- ・学校生活の中で、みんなが困っていることは何か?
- ・〇〇さんが困っていることは何だろう?

### 情報収集 整理・分析 ②⑤⑥⑨⑩

- 児童生徒に見通しを持たせるための作業時間を伝える。
- 進捗状況を確認する。
- どのようにすれば、学びが深まるか声かけをする。
- ・優先して取り組まないといけないことは?
- ・もっと必要な情報は?
- ・逆の立場なら?
- ・その解決策は他の人もできる?

### まとめ・表現 ③⑦⑪

- 発表する時間を設定する。
- 発表する方法を設定したり、児童生徒に考えさせたりする。
- ブラッシュアップさせる声かけをする。
- ・～さんからの意見を聞いて、どう思った?
- ・～さんの質問からやらなければいけないことは?
- ・次はどうしたらいいかな?
- ・相手に一番伝えたいことは何か?
- ・この構成で聴いている人は、わかるかな?

### 課題設定 ④⑧⑬

- 課題を見つけられるような時と場を設定する。(必ずしも外にでなくてもよい)
- ・問題だと感じたことは?
- ・どうしたら解決できそうかな?

### 振り返り ⑫

- 児童生徒に学びの変容を感じさせることができるようにする。
- ・この学習(今日の学習)で自分ができるようになったことは?
- ・この学習(今日の学習)で自分の考えが変わったところは?

## 児童生徒の学びが育っていくための形成的評価

- 身に付けさせたい資質・能力や本時のねらい、ルーブリックに応じたキャッチ&レスポンスをしっかりと行う。
- 本時の活動をどのように見取り、評価するのか、どのような学びにつなげていくのかを考えながら、机間指導を行う。
- ・このアンケートを取ることで、何がわかるの?
- ・この資料からわかるのはこれだけかな?
- ・自分たちの力でやってごらん。困ったときにはヒントをあげるよ。

学びの深まりがレベルアップ

# プログラミング教育の特性を生かした授業づくりを

## ◆課題発見・解決のプロセスを繰り返す

プログラミング教育の授業では、児童生徒が自分の「意図（課題）」を実現するために、解決方法の見通しを立て、試行錯誤を繰り返しながら学びを深めていく、という特性がある。このことから、下図のような課題発見・解決のプロセスにおいて、汎用的な資質・能力の育成を進めていく。



手順書や絵コンテなど、はじめに紙に書く活動を位置づけることで、児童生徒がプログラミングの「意図」を明確にし、活動の「見通し」をもつことができる。さらに、プログラムを修正する際には「試行錯誤の可視化」を行うことにもつなげることができる。

プログラミングの学びはPBLと親和性が高い。画像は「下級生を笑顔にしたい」という課題解決のため、未来のおもちゃづくりを行っている場面である。課題解決方法の一つとしてプログラミングを取り入れることでSTEAMの視点からPBLの実現につなげることができる。

単元を通して、プログラムの作成に終始せず、試行錯誤やプログラミングを生活に生かそうとする態度などに重点を置く授業づくりも必要である。答えが決まっている予定調和の学びから脱却し、児童生徒が学びの成果を自らの言葉で表現できるような振り返りを目指す。

### 授業デザイン



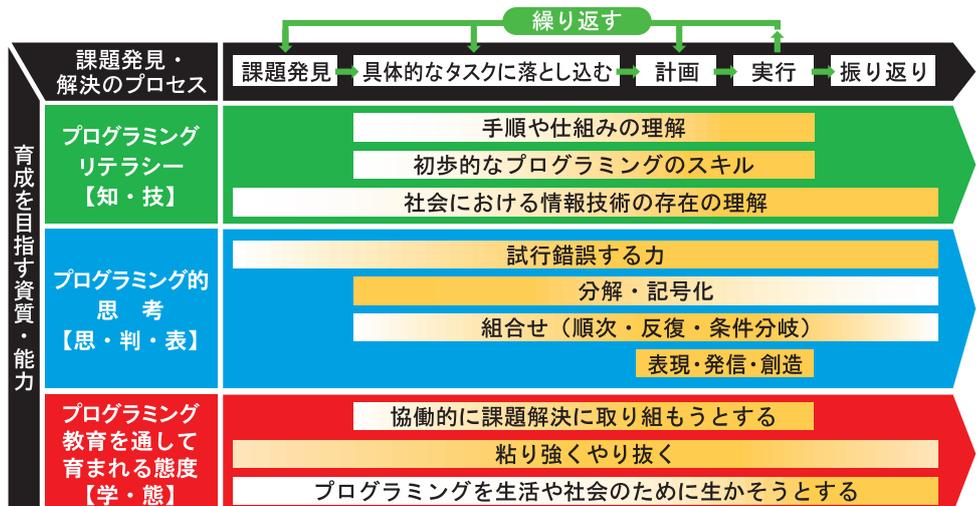
H31指導の重点・主な施策より

### 市全校共有フォルダ共有資料

- ・戸田市版プログラミング教育で育成を目指す資質・能力
- ・市カリキュラム用テキスト及び指導略案集
- ・各教科等における実践事例・指導案付き
- ・参考動画（小6理科 micro;bit・戸田南小研究発表授業）
- ・ICTリテラシー育成体系表（戸田第一小研究発表資料）
- ・教育センター貸出用教材一覧

放送大学 中川一史 教授 監修のもと、プログラミング・ICT教育研究推進委員会では、『戸田市版プログラミング教育で育成を目指す資質・能力』を作成している。

右図は、「課題発見・解決のプロセス」において、これらの資質・能力がどの場面で発揮されるのかを、各学校の実践をもとに分析・可視化したものである。色が濃いところほど、各項目が発揮されうる傾向が高いことを示している。授業づくりにおいてはこのことも念頭に置きたい。



## ◆その他にこのような特性も

- 結果のフィードバックが即時的であり、試行錯誤（トライ＆エラー）を前提にした学びになる。
- 既に存在しているテクノロジーの模型が作成でき、その仕組みの理解を深めやすい。
- 現実の課題解決につながるアイデアのプロトタイプ（試作型）を作ることができる。
- 児童生徒の興味・関心が高く、教師の予想を超える取組を行う児童生徒が多く出現する。

# ICTの活用 学びの可視化

ICTを活用し、児童生徒の学びの状況やプロセスを的確に把握(キャッチ)し、迅速・適切にフィードバック(レスポンス)することで、教師が「～させる」学びから、児童生徒が「～する」学びを目指す。

## ◆ ICTで効果的、効率的に **キャッチ & レスポンス** したい 3 場面

### 1 状況把握

同時に多くの児童生徒の学習状況を把握できます。一人一人の意見や活動に  
つまずく児童生徒を把握しやすくなり、的確な声かけや意見の関連付け等につ  
なげることができます。



教師の活用

**つかむ** ○さんと□さんがつまずいているな。

**みとおす** ○さんの考えを生かせるように、  
□さんの考えとつなげよう。

**そるえる** 理解の差が大きいな。全体で改めて説明しよう。

### 2 共有・創造

多様な意見や考えを手軽に共有できるため、自分の考えを深め、新たなもの  
を生み出そうという創造的な思考・学びにつながります。  
また、共通点や相違点が共有しやすくなり、児童生徒の対話を促すことがで  
きます。



教師・児童生徒の活用

**くばる** ~について、みんなはどう考えているのかな。  
**あつめる**

**くらべる** ○さんと□さんのちがいをくらべてみよう。

**くわえる** ○さんの考えに付け加えたら、もっとよくなりそう。

**まとめる** みんなの意見をまとめてグラフにして伝えたいな。

### 3 試行錯誤

これまで確認しづらかった思考の過程や自分の身体の動き等が可視化される  
ことで、児童生徒は即時的なフィードバックを得ることができ、考えや動き等  
を確認、修正しながら主体的に学びを深めることができます。



児童生徒の活用

**たしかめる** ○○すれば、～になるのかな。

**みつける** 思い通りに動かないな。どこがちがうのかな。

**ためす** 色々試して、イメージしたものに近づけよう。

児童生徒がICTの有用性を実感し、  
児童生徒自身がICTを「学びのツール」の一つとして活用できるように、  
教師はキャッチ&レスポンスしたい3場面をおさえ、活用をすすめる。

# リーディングスキルテストの視点に基づく授業改善2

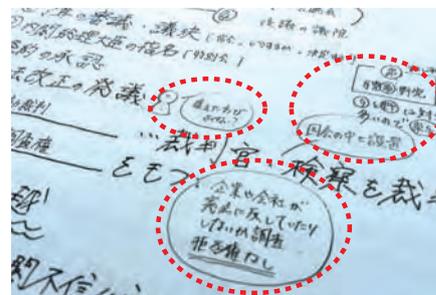
～RSTの成績がよかった生徒へのインタビューからの考察～

児童生徒が受検したRSTの結果から、特に成績がよかった生徒（中学2、3年生合計16名）を対象にインタビューを行った。以下は、生徒へのインタビュー内容（Q1～3）を考察し、日々の指導の参考になるポイントをまとめたものである。

## RSTの成績がよかった生徒16人に聞きました!!

**【Q1】** 授業で使っているノートを見せてください。

**【A1】** 教師が板書した内容等に加え、授業中、自らの判断で、気付いたことや大切だと思ったことをノートに記していた。  
（右のノートのように、吹き出しや枠囲みを使って、記述している）



社会科のノート(中学校第3学年)

### 指導のPoint

- ①問題文や本時の目標等、生徒に視写させる際は、これから何を書くか、事前に話してから板書し、教師と共に正しく書き終えるようにする。  
全員の聞く姿勢ができてから、指示や説明をする。
- ②ノート指導では、板書を視写するだけでなく、自分がどのように考えたのか、疑問に思ったこと、気付いたこと、もっと追求してみたいこと等も記述するよう指導する。

**【Q2】** 読書は好きでしたか。（また、いつ頃から好きになりましたか）

**【A2】** 大好き（全員）

- ★好きになった理由…家族による読み聞かせ、学校・図書館での読み聞かせ、周りに本がたくさんあったこと
- ★好きになった時期…就学前～小学校低学年頃
- ★よく読んでいた本…小学校3、4年で、ハリーポッターシリーズやマジックツリーハウスシリーズ。  
低学年の頃から、〇〇図鑑を眺めるのが好きだった。



### 指導のPoint

- ①活字に慣れるため、日頃から読む活動を大切にできるよう指導する。
- ②様々な分野に興味・関心をもつ（新しい知識に触れる機会をつくる）ようにする。また「疑問に思ったこと」「知らない言葉」等はすぐに調べるよう指導していく。

**【Q3】** 自分で決断することと、周りの人が決断してくれることではどちらが多いですか。

**【A3】** 部活動決め、習い事（塾も含む）を始めるかどうか等、親や教師、友達に相談をするが、最終的には自分の考えを尊重してもらい決断している。（全員）

**指導のPoint** 生徒自身が判断・決断する場面を多く作ること、生徒の考えを尊重する周りのサポートが自主性を育てている。授業においても同様に、子供たちが自由に考えたり、判断したりする場面を設定することが重要である。

## RSが高い生徒が分かりやすいと感じる授業とは？ ～生徒のインタビューより～

- 私たちが、つまずきそうな所は特に詳しく説明してくれます。また子供たち（聞き手）の受け取り方を考えて、話してくれます。（授業のUD化）
- 言葉だけの説明ではなく、絵、図、具体物等を使った授業が多いです。（可視化）（イメージ化）
- 何をすれば（考える・発言する・作業する等）よいか、分かりやすい指示を出してくれます。（焦点化）
- 用語の意味は丁寧に説明してくれます。  
生徒が間違えたときは、正しい用語の意味（定義）に振り返ってそれをもとに考えるよう教えてくれます。（言語化）



日々の授業をRST6つの問題タイプの視点から改善していくことが大切(※)

### 授業のねらい・目標の達成



詳細は以下の資料をご参照ください。

### 過去の関連資料

H31  
RSTの視点に基づく授業改善



多層指導  
MIMを用いた指導



H30研究集録  
RS向上を目指した共同研究



# すべての児童生徒が過ごしやすい学級づくりのために

## ー 学級雰囲気が良好なクラスー

- ・チャイムが鳴る前に、担任も児童生徒も授業の準備ができている。
- ・授業内におけるノートの取り方などのルールが確立されている。
- ・指示が明確である。
- ・教室の整理整頓ができている。
- ・話し合いが活発だが、メリハリがあるため騒がしくない。

## ー 学級雰囲気が良好でないクラスー

- ・チャイムが鳴っても授業が始まらない。
- ・ノートの取り方の具体的な指示やルールがない。
- ・指示が次々に追加され、途中で何をすることがわからなくなる。
- ・机がまっすぐ揃っていない。
- ・誰かの失敗や話し方に対して、他の児童生徒が過剰に反応をする。

## 良好な学級雰囲気のための2つのポイント

### Point 1 学習環境を整える

①教室の環境調整、②指示の明確化を行い、児童生徒が落ち着いて学習に取り組めるように環境を整える。  
ルールを定着させるためには、できていない児童生徒ばかりに目を向けるのではなく、できている児童生徒に対して、教師が褒める、認めるなどの適切な評価をすることで、学級全体に波及させる。

【チェックリスト 1～8】

### Point 2 他者を尊重する雰囲気づくり

学習環境を整えた上で、児童生徒の様子を確認しつつ**肯定的な声かけをする**など、良好な関係性を構築し、他者を尊重する雰囲気を醸成する。

【チェックリスト 9～13】

## 学級の雰囲気チェックリスト

筑波大学 柘植雅義・岡部帆南

番号	場面	内容
■ 1	授業開始前	教室の整理整頓（本棚・ロッカー・児童生徒と先生の机など）ができている。
■ 2		机が真っ直ぐ揃っており、床に荷物やゴミが落ちていない。
■ 3		チャイムがなる前に、児童生徒も先生も授業の準備ができている。
■ 4	学級経営・授業運営	クラスのルールやマナー、授業内における発表の仕方、ノートの取り方などが確立されている。
■ 5		授業の進め方や本時の内容が明確である。
■ 6		授業内における話し合い活動や意見交換が活発である。ただし、メリハリがあるため、騒がしくない。
■ 7		課題が早く終わった児童生徒や時間を持て余している児童生徒、私語をしている児童生徒に対して、次の指示を出している。
■ 8		必要に応じて、板書に振り仮名を付けたり、ページ番号を書くなどの工夫をしている。
■ 9	やりとりの児童生徒と先生	児童生徒が自分の意見や感想をノートに書いているタイミングで、先生自身の仕事や作業を行わず、児童生徒の表情や姿勢を確認している。
■ 10		「いいね!」「そうそう!」「OK!」などの肯定的な言葉掛けをしている。
■ 11		児童生徒と担任の先生の授業内におけるやり取りが多く、テンポが良い。
■ 12	やりとりの児童生徒と同士の児童生徒	物を落としてしまったり、作業についていけなかったりする友人のことを気に掛け、すばやく行動に移すことができる児童生徒が多い。
■ 13		誰かのふざけや失敗に対して、過剰に反応する児童生徒が少ない。

雰囲気づくり

×

セサミストリート・カリキュラム

=

多様性を認める学級づくり

セサミストリート・カリキュラムは、「キャリアとお金」「価値や多様性の理解」「インクルージョンの実現」の3つの軸を中心に構成され、教科における学力の向上だけでなく、社会性や情緒的行動、生涯学習における基礎的な資質の育成を目標としている。各学年12のプログラムから学級や学校の実態・ニーズに合わせ、必要なプログラムを選択することができる。



### セサミストリート・カリキュラムの4ヶ条

- 1 間違いも正解もない。
- 2 思ったこと、考えたことは全て発言する。
- 3 お互いを尊重し、受け入れ合う。
- 4 途中で考えが変わってもよい。

### セサミ×特別支援

単元名：立場の理解（4学年）

課題：相手の立場にたった関わり方を考えよう。

〈展開〉

- ・街にはどんな人がいるのかを考える。
- ・特別支援学級について知る。
- ・見た目だけでは「困っていること」がわからない人がいることを知るとともに、接し方を考える。
  - ・考えたことをグループ、クラスで共有する。



### セサミ×国際理解

単元名：文化の違い（4学年）

課題：いろいろな文化や価値観を知り、尊重の仕方を考えよう。

〈展開〉

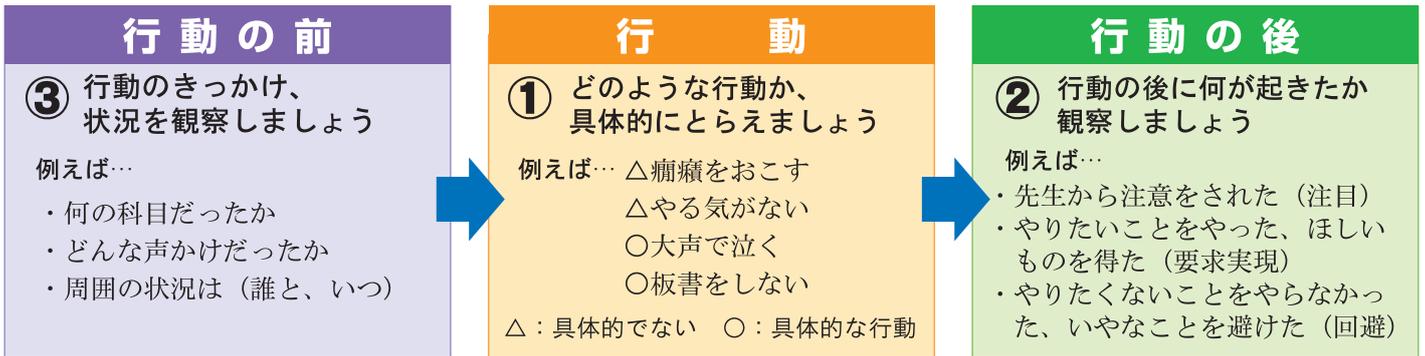
- ・自分が出合った文化や価値観の違いをワークシートに書く。
- ・ゲストティーチャーから他国と日本の生活様式や風習の違いなどについて紹介してもらう。
- ・自分が出合った文化や価値観の違いをクラスで共有する。
- ・自分と違う文化や価値観と出合ったときにどうするかをグループ、クラスで話し合う。

セサミストリート・カリキュラムは、児童生徒一人一人の違いを認め合い、それぞれの持ち味を発揮できる学級＝多様性を認める学級をつくるための手立ての一つとなります。



# 児童生徒の「気になる行動」へのアプローチ

## STEP1 「気になる行動」を3つの場面に分割し、観察しましょう



どのような行動が、どういうきっかけで起こり、どんな結果になったか観察できたら、

## STEP2 行動の前後にアプローチし、「望ましい行動」を増やすための工夫をしましょう

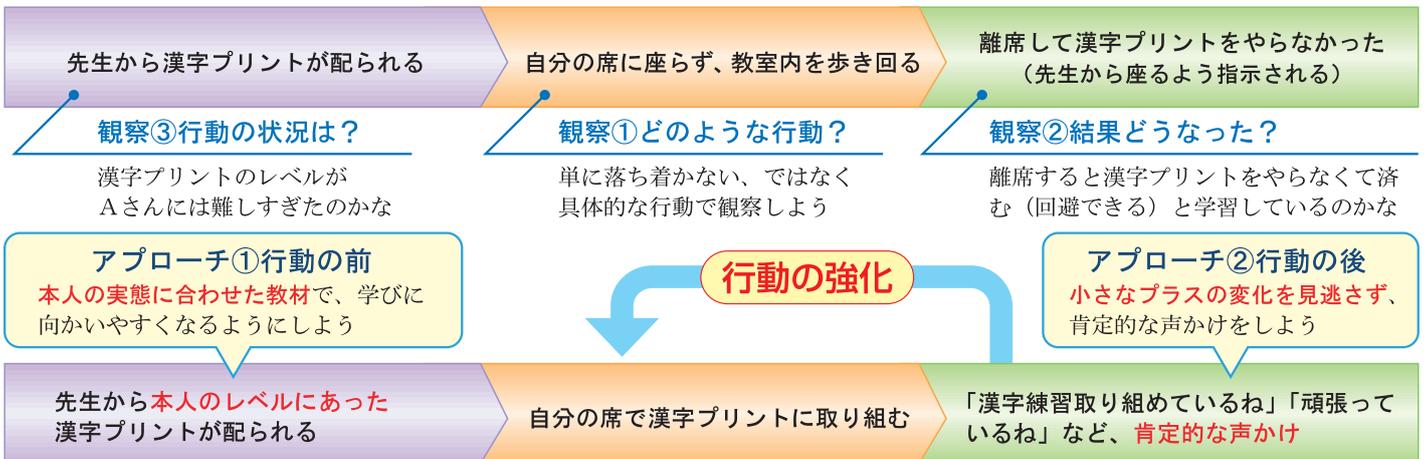
### 行動の前にアプローチして、望ましい行動を増やすには…

- ・望ましい行動がしやすくなるように環境を整える
- ・何をしたら良いかがわかるように、具体的に指示を出す など

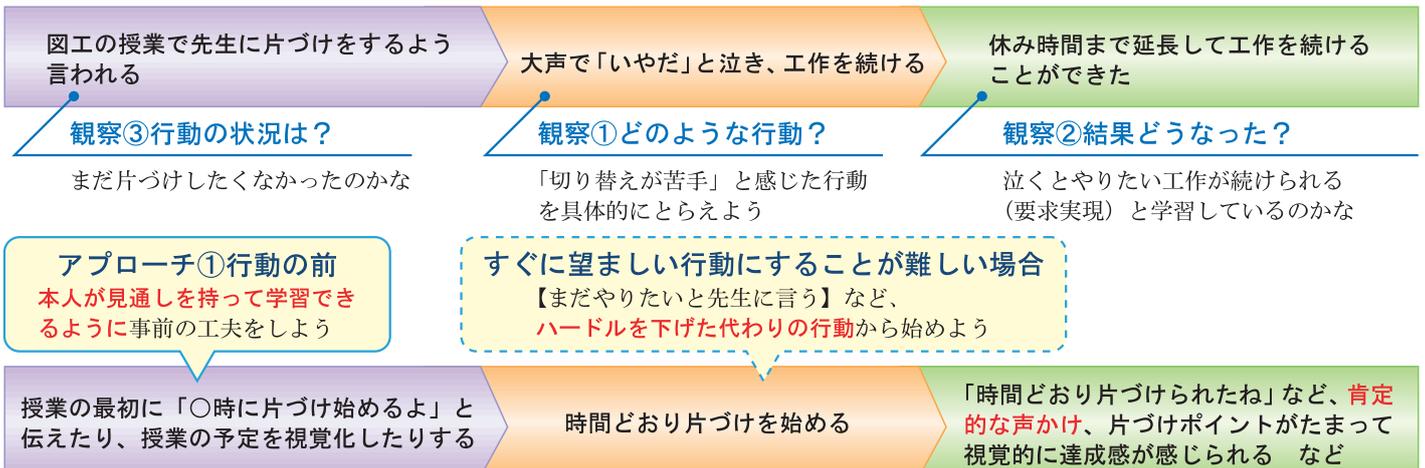
### 行動の後にアプローチして、望ましい行動を増やすには…

- ・望ましい行動に近づいたときに、褒める・認めるなど肯定的な関わりをする  
(行動のすぐ後に肯定的な関わりをすることが効果的)

### 例1：国語の授業で落ち着かないAさん



### 例2：切り替えが苦手なBさん



—とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を—



令和元年度

# 戸田市教育研究集録

## 戸田市教育フェスティバル開催

WEB会議システムによる遠隔研修

令和2年1月8日(水)、戸田市役所にて「戸田市教育フェスティバル」を開催しました。今年度は、「これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方」を共通テーマに、認定NPO法人カタリバ パートナー 今村 亮 様と、デジタルハリウッド大学大学院 教授 佐藤 昌宏 様をお招きし、それぞれ異なる領域の第一線で御活躍のお二方に御講演いただきました。

共通テーマ  
講演

### これからの時代に向けた個に応じた学びの在り方

#### ◆講演 1



認定NPO法人カタリバ  
パートナー  
今村 亮 氏

#### ●これからの時代の課題

日本の10代は、自己肯定感や社会参画の意識の低さ、意欲や創造性を育むきっかけをつかめない「きっかけ格差」の広がりなど様々な課題がある。さらに、Society5.0の到来に向け、これからの教育は、「答えを与えられる教育」から「学ぶ目的を見つける『探究』」にシフトしていく必要がある。

#### ●個に応じた学びの在り方

PBLを一つの方法として、自らテーマを設定することを基礎とした「マイプロジェクト」という手法を探究学習に導入している。マイプロジェクトは「Will (興味・関心・好きなこと)」「Need (必要性・課題)」「Can (できること)」の3つの輪が重なった時、動き出す。探究心を引き出すためには、子供達の「何か気になる」を尊重しながら進めることが大切である。自分のWill-Can-Needをとにかく書き出してみることも有効である。

個に応じた学びには、これまで以上にパワーが必要であり、活かせる外部の力を積極的に取り入れていく必要がある。そのためにも、やめる勇気、省力化する勇気も必要で、テクノロジーの活用、そのヒントがある。

#### ◆講演 2



デジタルハリウッド大学大学院  
教授  
佐藤 昌宏 氏

#### ●教育は本気で変わり始めた。

学びのSTEAM化、学びの個別最適化など取組が進んでいる。学生は、テクノロジーを活用して、自分で新しい学びをつくり、イノベーションを起こしている。デジタルテクノロジーが社会インフラとなったことから、「教育」という制度を学習者中心に再考する必要があると考える。

#### ●学びの個別最適化

学習者はインターネットやテクノロジーによって自分の興味・関心を深化するシーンが増えてきている。デジタルテクノロジーを使うことによって、学習者の学びの情報が可視化できる。ログが残ることで検証可能、再現可能となり、数字を元にしながら教育を科学し議論することが可能になる。スタディログが蓄積され分析可能な状態になり、可視化されることで ①学びの振り返りができる ②学習者にとって最適な学習環境が獲得できる ③教育・指導方法の改善につながる ④個別の学習計画が立てられる などのメリットがある。今言われている一人一台の本質的な意味は、個別最適化の始まりを意味している。

学習の個別最適化は進むが、一斉授業と個別学習の在り方は、これからも試行錯誤していかなくては行けない。二項対立ではなく、掛け算の発想で学習者の成長によりよい方法を考えていく必要がある。教育改革は、一朝一夕にはいかない。10年後のあるべき姿を改めて考えながら、進めていかなければならない。

## 戸田市教育委員会



▼戸田市教育委員会公式 Facebook  
<https://www.facebook.com/todaedu>

## \* 挨拶

戸田市教育委員会 教育長  
戸ヶ崎 勤



令和元年度戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）等による研究の成果がまとまりましたので、ここに「戸田市教育研究集録」として刊行いたします。

今年度は、136名の教育センター研究員の皆様に、資質・能力の育成と学びの質を高める授業を目指し、自主的かつ積極的な研究に取り組んでいただきました。

最先端技術を活用した教育の在り方やICTのマストアイテム化に向けた動きなどが多く示されたこの一年間、Society5.0の時代の主役となる子

供たちの学びの場、学び方は日々大きく変化しています。本市では、未来社会で活躍する子供たちにとって必要な力を育成すべく、PEERカリキュラムに続き、『SEEPプログラム(Subject, EdTech, EBPM, PBL)』を進めております。本研究集録も、その4つのカテゴリーを柱に構成いたしました。SEEPとは、浸透するという意味です。今後、SEEPプログラムが市内全小中学校に浸透し、先生方の授業改善がさらに加速していくことを願っております。

結びに、真摯に研究を進められた先生方に対し敬意を表すとともに、多くの先生方が教科等の研究や新しい学びをはじめとする学校の取組の推進役となっていただくことをお願い申し上げ、挨拶といたします。

## 埼玉県学力・学習状況 調査分析から



慶應義塾大学 総合政策学部  
教授 中室 牧子氏

子供が受験するとき、少しでも偏差値が高い学校に合格してほしいと願う親は多い。学力が高い同級生に囲まれていると、同級生の影響を受けて自分の子供の学力も上がると期待するからだろう。インターネットを検索しても「優秀な友達から刺激を受けられる」「優秀な友達は一生の財産」といった意見がある。

学校でも、とかく友達同士の関係というものには影響が大きいと感じている教師は多いのではないかと。経済学では、友達など身近な人が個人の考え方、習慣や行動に及ぼす影響を「ピア効果」と呼び、研究の蓄積がある。喫煙、飲酒、肥満、キャリア選択、貯蓄からゴルフの成績に至るまで、ピア効果の存在を証明した研究は多い。少しでも偏差値が高い学校を望むのは合理的なように見えるが、この判断には強い前提がある

ので注意が必要だ。それは、優れた友達から受ける影響は「良い」影響であるという前提だ。かつては、そうした結果を示す研究が大勢だったが、最近の研究では、優れた友達から「良い」影響を受けるかどうか、意見が分かれている。

米フロリダ州の生徒を6年間追跡した、ボストン連邦準備銀行エコノミストのメアリー・バーク氏と、フロリダ州立大学のティム・サス教授による論文は有名だ。もともとの学力がクラスの上位20%の生徒は、同じクラスに自分と同様に学力が高い生徒がいると学力が向上する。一方、もともとの学力が下位20%の生徒は、上位20%の生徒がいると、むしろ学力が下がってしまった。優れた友達から受ける影響が良い影響かどうかは、もともとの生徒の学力に依存することを示唆している。

もともと学力の低い生徒が、学力が高い同級生と交流すると学力が下がってしまうのはなぜか。この問題を考えるうえで、学校内やクラス内の「成績順位」に着目した最新の研究が続々と発表されている。学習塾で模試の成績順位が廊下に貼り出されたり、学校での習熟度別学級で成績が上のクラスと下のクラスに分かれたりすることで、子供たちが塾内や学校内での自分の成績順位を意識する場面は数多くあるだろう。順位に着目した研究の背後にあるアイデアは、同程度の学力だが、学校やクラス内の順位が異なる生徒を比較するというものである。

状況を整理するために、次のような場面を想像してみしてほしい。同じ戸田市内の近くの小学校に通うAさんとBさんがいたとする。AさんとBさんは、埼玉県学力・学習状況調査で80点の実力の生徒である。しかし、二人が通う小学校の埼玉県学力・学習状況調査の平均点はAさんの学校のほうが高い。AさんとBさんは同じように80点を取れる実力なのだが、Aさんは学校内の順位が100人中70位で下位なのに、Bさんは100人中20位で上位に位置している。こうした状況の下で、中学校で成績が良くなったり、順位が高くなったりするのはAさんとBさんのどちらだろうか。多く人は、「学力の高い小学校に通っているAさんのほうが、周囲の優れた友達から良い影響をうけて、中学校で有利になるだろう」と考えるのではないだろうか。だからこそ、私たちは、わが子に「少しでも偏差値の高い学校に合格してほしい」と願うのだろう。

私たちが埼玉県学力・学習状況調査のデータを用いて推定してみると、成績順位についての研究の結果は一貫している。中学校で成績が良くなり、順位が上がっていく

のはBさんである。AさんもBさんも同じ程度の学力なのに、である。「鶏口となるも牛後となるなかれ」とはよく言ったものではないか。なお、米国のデータを用いた研究は、高校での成績順位が10%上昇すると、大学進学率が1.4ポイント上昇するということが示されており、別の研究では小学校4年生の時の成績順位が30歳代になってからの賃金に影響しているという研究もある。どうして順位がそこまで重要なのか。海外の研究では、自分自身の順位が高いと認知すると、「自分の能力に自信を持ち、勉強への意欲が高まる。精神面でのストレスも減り、将来に明るい見通しを持つようになる」と指摘している。この研究では学校内やクラス内の順位が上がっても、親や教師の行動は変化しないことも明らかにし、生徒自身が「自分をどう評価するか」がポイントだと結論付けている。ちなみに、埼玉県学力・学習状況調査のデータを用いた研究も同様である。学校内やクラス内の順位が変わっても、親や教師の行動は変化していない。しかし、子供本人の自己効力感は大きく変化し、そして学習方略の中の「努力調整方略」に著しい変化が生じているのだ。

他人との相対的な順位によらず、努力をする子供に育てることが重要だが、そのために私たちができることは何か。今年度も戸田市では、埼玉県学力・学習状況調査のデータをもとに、子供の学力を特に伸ばした戸田市内の小中学校で31名の教師にインタビューをしている。インタビューの結果からは、日頃の授業等の中で、努力の過程を可視化することに注力していることがわかる。カードや学習シールを使って、目標達成までの過程を視覚化し、どのくらい努力をすればどのくらいのこと達成できているのかを知ることにつなげているという。参考になる取り組みではないかと思う。

# リーディングスキルテストの共同研究



国立情報学研究所社会共有知研究センター長  
情報社会関連研究系教授  
新井紀子氏



東京理科大学  
理学部第一部応用数学科准教授  
松崎拓也氏

## 【戸田市教育委員会と国立情報学研究所・東京理科大学の共同研究】

はじめに

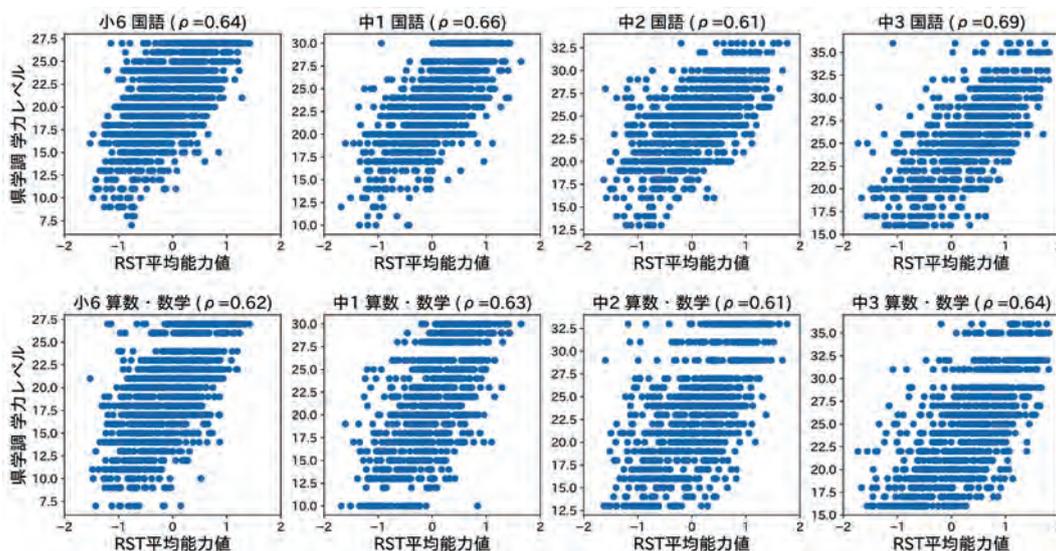
リーディングスキルテスト（RST）とは、生涯学び続けることが求められる変動の時代の基本スキルである汎用的基礎的読解力（リーディングスキル：RS）を測るためのテストです。とだっ子が更なる学力向上を目指せるよう、すべての能力を支えるRSを様々な教科の学習を通じて育む必要があります。この研究は、戸田市でのエビデンスベースでの授業改善が、より一層進むよう各種学力調査等を関連付けながら分析した結果の考察です。

### ◆本年度の戸田市リーディングスキルテストの結果から

本年度も平成29、30年度に続き、戸田市内小学校第6学年、中学校第1～3学年の全ての児童生徒がRSTを受検しています。本年度は①係り受け解析、②推論、③具体例同定（辞書、理数）、④イメージ同定の4タイプの読解スキルの測定に加え、埼玉県学力・学習状況調査（埼玉県学調）の結果とRSの関係の分析を行い、さらに、語彙力や文構造把握の力など複数の観点から読解のつまづきの原因を探る分析調査を行いました。

#### （1）リーディングスキルテスト結果と埼玉県学調の相関分析

下図は、本年度のRST全受検者について、上記4タイプの読解能力値の平均値（横軸）と、令和元年度の埼玉県学調（国語および算数・数学）における36段階の学力レベル（縦軸）との関係を図示したものです。図中の $\rho$ は相関係数と呼ばれる統計値で、-1から1の範囲の値を取り、受検者の2つの特性（読解能力値と学力レベル）の関係が直線的である度合いを表します。全ての学年及び国語と算数・数学の両教科で相関係数は0.61～0.69の範囲であり、RSと学力レベルには明らかな正の相関があることが分かります。



さらに、RSと学力の多様な側面の関係をより詳しく見るために、RSTの能力値レベルに従って受検者を6グループに分け、埼玉県学調の小問ごとに各グループにおける正答率も調べました。

令和元年度の算数・数学の問題のうち、RS最上位のグループと最低位のグループにおける正答率の差が最も大きかった小問を次の図（次ページ）に示します。いずれもRSTの能力値レベルによって正答率に最大で80ポイント近い差が出ています。問題の概要からは、小6・中1ではイメージ同定で測定しているような「図表の読み取り能力」に近い問題、また、中1～中3ではいずれも知識・技能を活用するような問題で個々のRSによる差が出ていることが明らかとなりました。さらに、中2では体積の求め方と言葉による説明、中3では表面積の求め方の文字による表現と、いずれも数学的内容を言葉や記号によって表現する力（関連付ける力）を問う問題でRSによる差が出ていることが分かります。

小問番号	小6算数 9(2)	中1数学 4(2)	中2数学 4(1)	中3数学 3(1)
能力値ごとの正答率				
正答率 (戸田市)	44.1%	32.9%	58.6%	41.5%
問題の概要	帯グラフを読み取り、説明として適切なものを選ぶ	縮図から実際の木の高さを求める	三角柱の体積の求め方について正しい説明の組合せを選ぶ	立体の表面積を文字を使って表す

## (2) 語彙知識とリーディングスキル

RSTによる読解力測定と同時に、ある単語を知っているか否かを調べる語彙テストを行い、RSTの問題中に含まれる単語を知っているかどうかで問題に対する正答率にどの程度の差があるかを調べました。調査対象とした40語のうち、知っているかどうかでRST問題の正答率に有意な(偶然とは考えられない)差があった35語を以下に示します。

### (図中の△…当該の単語を知っていた受検者と知らなかった受検者の正答率の差)

子房 ( $\Delta=0.24$ )	受粉 ( $\Delta=0.36$ )	一揆 ( $\Delta=0.23$ )	航路 ( $\Delta=0.26$ )	分子 ( $\Delta=0.28$ )	葉脈 ( $\Delta=0.25$ )	足利義満 ( $\Delta=0.21$ )
琉球 ( $\Delta=0.20$ )	うきよえ ( $\Delta=0.21$ )	胞子 ( $\Delta=0.19$ )	もとづく ( $\Delta=0.22$ )	有権者 ( $\Delta=0.22$ )	食料自給率 ( $\Delta=0.20$ )	律令 ( $\Delta=0.19$ )
要因 ( $\Delta=0.20$ )	侵攻 ( $\Delta=0.16$ )	かじ屋 ( $\Delta=0.16$ )	こまく ( $\Delta=0.17$ )	えいきょう ( $\Delta=0.18$ )	ぞくする&独立国家 ( $\Delta=0.19$ )	ぼうちょう ( $\Delta=0.16$ )
課題 ( $\Delta=0.17$ )	水銀 ( $\Delta=0.12$ )	たくみ&配置 ( $\Delta=0.14$ )	消費量 ( $\Delta=0.16$ )	ぎゃくてん ( $\Delta=0.17$ )	マグマ ( $\Delta=0.19$ )	湿度 ( $\Delta=0.16$ )
はげんする ( $\Delta=0.14$ )	ちそう&堆積 ( $\Delta=0.09$ )	すきま ( $\Delta=0.16$ )	潮 ( $\Delta=0.10$ )			

上記のリストには「律令」や「受粉」といった教科の学習内容に相当する語だけでなく、「もとづく」「ぎゃくてん」「すきま」「えいきょう」「要因」といった一般的な単語も含まれます。このことから、RSを高めるためには、教科内容の学習のみでなく、さまざまな基本的・一般的な語を正しく身に付けることも重要であることがわかります。以下に、「足利義満」を含むRST問題と「足利義満」を知っていた受検者・知らなかった受検者それぞれの正答率を示します。

<p>明が倭寇の取りしまりを求めたため、足利義満は倭寇を禁じるとともに、正式な貿易船に、明から与えられた勘合という説明書を持たせ、朝貢の形式の日明貿易を始めた。この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。</p> <p>日明貿易を始めたのは( )である。</p> <p>○勘合 ○倭寇 ○足利義満 ○朝貢</p>		正答数	誤答数	正答率
	知っている	450	85	0.84
	知らない	147	87	0.63
	全体	597	172	0.78
正答率の差( $\Delta$ )0.21				

問題を見ると、実際には「足利義満」がどのような人物であったかという知識は必要でなく、ただ「人」であることが分かれば正解できるはずの問題であったことがわかりますが、それにも関わらず、「足利義満」を知っているか否かで正答率に20ポイントの差が出ています。このことから、文脈から言葉の意味を推測する力がRSを高めるポイントの一つであること、また同時に、未知の内容であっても落ちて文章と向き合う力を養うことが必要であることが示唆されます。

## おわりに

本年度は、RSを継続して測定するとともに、学力の多様な側面とRSとの関係を探ること、また、基本的な語彙力など、いくつかの視点から読解におけるつまずきの原因を探ることができました。今後も、これらの研究蓄積を生かし、効果的な指導方法をみなさんと共に吟味していきたいと考えています。

# 小学校教師による ペアレントトレーニング短縮版 「子育て学習会」の実践報告



株式会社LITALICO  
LITALICO研究所 所長  
野口 晃菜氏

## 1

### LITALICOジュニアの取組

LITALICOジュニアには発達障害のある子どもを中心とした多様なニーズにある子どもが約8,000名通っています。平均週に1回LITALICOジュニアに来所し、学習面や対人面など、個々のニーズに合わせた指導・支援をしています。LITALICOジュニアでは困難な状況があるとき、その要因は子どもの障害そのものにあるのではなく、子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用の中にあると考えています。そのため、子どものみでなく、家族や園・学校など、環境への支援を大切にしています。LITALICOにおけるペアレントトレーニング（以下ペアトレ）は子どもに合わせた具体的な関わり方を家族が知ることで、子どもとより良い関係性を築けることを目的にし、家族支援の一環としておこなっています。

## 2

### 戸田市におけるペアレントトレーニング短縮版「子育て学習会」の効果

2018年度に希望される先生向けに研修（夏休みに6時間の座学研修、その後ペアトレ見学）をし、その後各先生が7校にてLITALICOペアトレ短縮版である「子育て学習会」を3日間（各90分）にかけて実施しました。子育てに困りごとを抱えている保護者向けに募集をした結果、43名の保護者が受講しました。内容は「ほめるハードルを下げる」などほめるコツを学ぶ「ほめ上手」、「予定や指示を視覚的に示す」など環境を整えるコツを学ぶ「整え上手」、「具体的に伝える」など伝え方のコツを学ぶ「伝え上手」です。

その結果、保護者の抑うつ状態の改善、肯定的な関わりの増加、子どもの行動問題の改善がみられました。子どもの在籍級は通常学級が多く、通常学級にいらながらも支援ニーズのある子どもに対して、「子育て学習会」で保護者を通じて効果的な支援ができる可能性が示されました。また、学習会を実施した先生の効果として、保護者対応、生徒の意欲を引き出す関わり、指導法に関する自己効力感の向上が見られました。実施後のアンケートにおいても、「学級経営にも役立った」との回答があったことから、「子育て学習会」は保護者支援のみでなく、先生の子どもへの関わり方を学ぶ機会としても有効であると考えられます。一方で、研修や実施時期が他の行事などと重なってしまい負担であったとの声もありました。

## 3

### 今後の展開

これまでの課題を踏まえ、今後は夏休み期間中の実施や研修時間の削減等、負担を減らしながら多くの必要とする保護者に届けられる仕組みを検討しています。2020年度は更に多くの学校、多くの保護者向けのペアトレ実践を予定しています。子どもの行動問題を子ども自身のせいにして、学校や家庭が責任を押し付け合ったりするのではなく、子育て学習会を通じて共通言語を持つことで子どもを中心とした支援ができるということを今後も戸田市と一緒にチャレンジしていきたいです。

# EBPMについて

## (Evidence-Based Policy Making)

### ◆ データ分析結果等のエビデンスを参考にした取組について

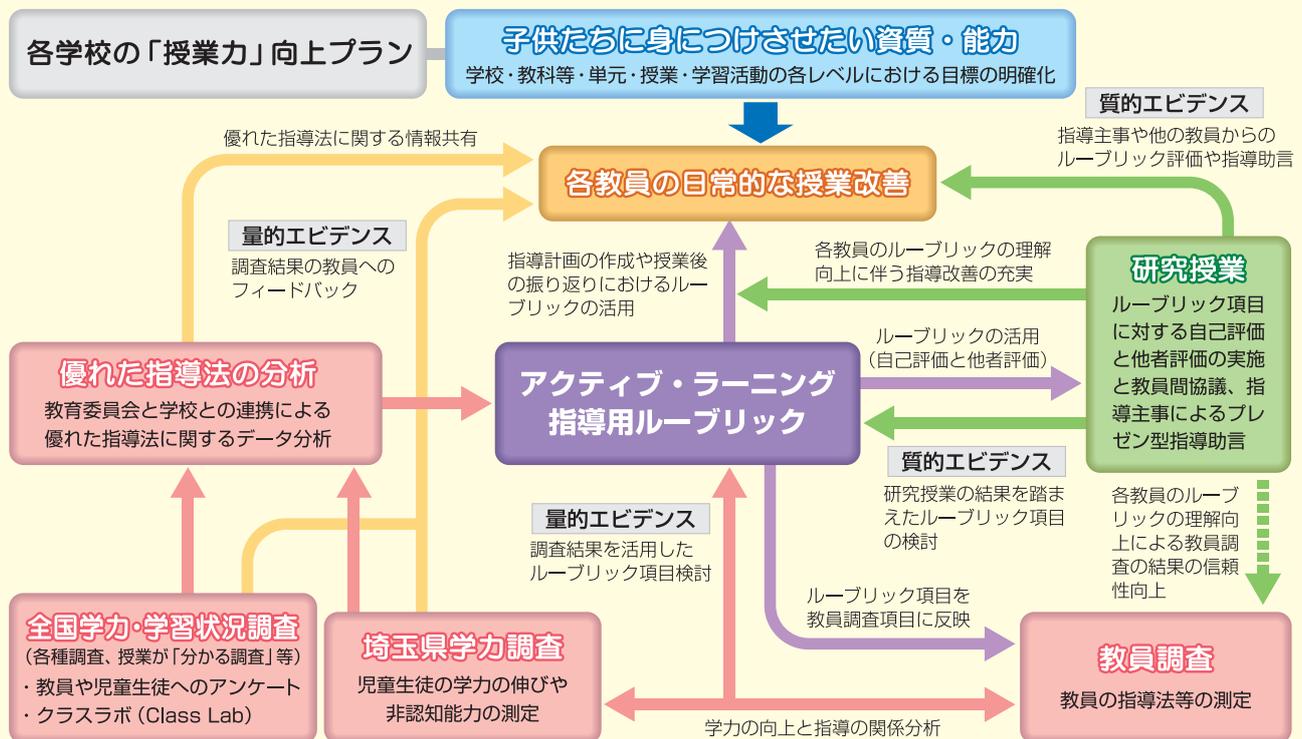
現在、国や各自治体において、客観的な根拠（エビデンス）を交えた意思決定を行うことが推進されています。本当に効果のある取組が何かを検討するため、意思決定の説明責任を果たすため、取組の効果検証・改善を進めるため、など種々の狙いがある背景にあります。より質の高い教育を子供達に提供していくために、戸田市教育委員会においても「学校の現状や課題」「教員や児童生徒の価値観や経験」に加えて、エビデンスも活用しながら様々な取組を進めています。

### ◆ 代表的な取組について

#### (1) 戸田型授業改善モデル

各種テスト・調査の結果を活用して戸田型授業改善モデルを作成しています。このモデルは、教員調査結果や研究協議内容に基づいて作成したアクティブ・ラーニング指導用ルーブリックをもとに、日々の授業改善を進めようとするもので、授業改善に関する複数の取組を結びつけていることに特色があります。例えば、学力調査結果の分析によって子供達の学力を伸ばしている教員を選出し、その教員が授業で重視しているルーブリック上の要点をヒアリングしてまとめ、指導規準の重点項目として学校現場にフィードバックしています。

#### 〈戸田型授業改善モデルのイメージ〉



#### (2) 各種テスト・調査結果と学力の相関分析

本市で行っている各種テスト・調査結果と、埼玉県学力・学習状況調査で測定した学力の関係を分析しています。様々な観点から授業改善のヒントを探り、教員にフィードバックできる知見の獲得を目指します。現在、分析に必要なデータの取得や整理を進めており、徐々に分析の幅を広げています。代表的なものとして、国立情報学研究所・東京理科大学との共同研究により進めている、リーディングスキル（RS）と学力の関係分析が挙げられます（4頁参照）。

未来を生きる児童生徒にICTは「あったらよいもの」ではなく「なくてはならない」マストアイテムです。本市はこの考えのもとに全国有数のICT環境を整え、既に国が示すICT環境整備目標（右図）を達成しています。現在、全国的に「GIGAスクール構想の実現」に向けた取組が進められる中、本市ではこの充実した環境を生かした実践のフェーズに入っています。各学校ではICTを「学びのマストアイテム」として日々の授業に位置付けるとともに、教育に関する先端技術を活用した実践研究にも取り組みました。こうした取組を通して、各学校におけるICTの利活用は着実に推進されています。

## 国のICT環境整備方針目標（2022年まで）

- 学習者用コンピュータ 3クラスに1クラス分程度整備
- 指導者用コンピュータ 授業を担当する教師1人1台
- 大型提示装置・実物投影機 100%整備  
各普通教室1台、特別教室用として6台  
（実物投影機は、整備実態を踏まえ、小学校及び特別支援学校に整備）
- 超高速インターネット及び無線LAN 100%整備
- 統合型校務支援システム 100%整備
- ICT支援員 4校に1人配置

**戸田市では全項目を達成**

文部科学省「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」より

## 日々の授業でICTをマストアイテム化



協働的な学びのルール



思考の可視化・共有化



PBLにおける活用



プログラミング教育

## 先端技術等を活用した実践研究



遠隔会議システム活用（左：香港日本人学校との交流／右：教員研修）



学習者用デジタル教科書



オンラインCBTの取組

# PBL

## 授業実践を推進するための取組

### ■今年度の取組 —実践ベースの推進体制の確立—

昨年度に引き続きPBLの理解を深めるための視察や、研修会等を進めつつ、実践段階となる今年度は、各校における実践を後押しすべく、戸田市PBL-STEAM教育アドバイザー制度を創設し、インテル株式会社の竹元賢治様と株式会社WiLの遠藤慶太郎様にアドバイザーの委嘱をしました。竹元様には、Intel社の教員研修プログラムであるIntel@Teachプログラムに基づく知見やネットワークを元に、市主催のPBL研修や実践家を招いた校内研修等を多数コーディネートいただきました。遠藤様には、社会人のイノベーター育成経験やノウハウを元に、小学校での校内研修の

他、今年度から起ち上がったセンター研究員「イノベーション教育・PBL研究部会」における講演や授業づくりの指導をしていただきました。その他、PBLに知見をもつ、株式会社キャリアリンクの小池紗也香様による市内小・中学校における9年間の一貫カリキュラム作成に向けた研修や、北陸大学教授の藤岡慎二様による中学校のカリキュラム開発の御支援をいただきました。今年度は、産学官連携による推進体制が充実したことにより、その結果、各校において多くの実践事例が創出されるなど、市内全校においてPBL推進に向けた機運が醸成されました。



## PBLの成果

（第4回戸田市小・中学校児童生徒プレゼンテーション大会の様子）



プレゼンテーションを動画でご覧いただけます。

※動画共有サイト『You Tube』に移動します。



市内全小中学校がPBLの一環としてプレゼンテーションをしています。

## \*教科等研究グループについて

戸田市立教育センター教科等研究グループ（教育センター研究員）は、教師としての資質と指導力の向上と、戸田市の教育の充実を目的として研究を推進しています。今年度は新たにSTEAM教育とPBLを視点として加え、各部会でテーマ設定をし、11部会が研究に取り組みました。

### 国語部会

主体的・対話的で深い学びを、  
**児童生徒が実感できる授業づくり**  
 ～国語科における思考ツールを生かした授業づくり～

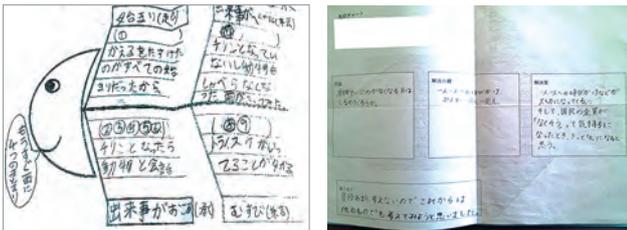
#### ■研究内容

【指導案や教材を持ち寄り、指導法の共有や協議】

- ・身に付けさせたい資質能力をつけるための思考ツールの活用
- ・語彙力・表現力を向上させる教材研究
- ・児童生徒に興味関心をもたせる授業づくり

#### ■研究成果

- 意欲の向上
- 思考の整理
- 思考の視覚化
- 授業のねらいに沿った思考ツールの選択
- 思考ツールの応用の仕方



### 社会部会

主体的・対話的で深い学びを実現する  
**社会科の学習指導**  
 ～教科等横断的な学びを通して～

#### ■研究内容

【指導法の視点から】

- ・問題解決的な学習の実現（つかむ・調べる・まとめる・生かすの指導の充実）
- ・ICTの活用など、児童の主体的な活動の動機付け

#### ■研究成果

- ・資料から発見したことを共有することで、新たな疑問が生まれ、新たな視点で調べ活動が広がっていった。
- ・ICT（ロイロノート）を活用することで、考えを自由に表現できた。
- ・自らが資料に向き合うことで、その後の話し合い活動が充実し、深い学び合いへとつながった。



### 算数・数学部会

創造的な学習による21世紀型スキルの育成  
 ～主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善～

#### ■研究内容

- ・創造的な学習の考察、授業実践の検討
- ・主体的・対話的で深い学びの在り方
- ・統合的・発展的な考察を含んだ「数学的な見方・考え方」

#### ■研究成果

- ・創造的な学びを構築し、21世紀型スキルを育成することについて、授業研究会（小学校第5学年での実践）を通し、以下の三点について検証することができた。
  - ①児童生徒が自ら問題を見いだしたり自覚したりする問題提示
  - ②統合的・発展的な考察を含む数学的な見方・考え方を働かせる授業展開
  - ③深い学びを促す、対話と協働



### 音楽部会

音楽的な見方・考え方を働かせる  
**主体的・対話的で深い学びの探究**

#### ■研究内容

- ・児童が自己のイメージや感情と音楽を結びつけるための教師の支援の工夫
- ・〔共通事項〕を柱とした主体的、対話的な学習を促す教具、授業展開や学習形態の工夫

#### ■研究成果

- ・〔共通事項〕を学習の支えとすることが、児童が音楽的な見方・考え方を働かせながら音や音楽の仕組みへの理解を深めていくことに効果的であった。
- ・教具や授業展開を工夫することにより、児童が興味・関心をもって主体的に学習に取り組み、深い学びを実現することにつながった。



## 体育・保健体育部会

主体的・対話的で深い学びを、  
児童生徒が実感できる授業づくり  
～アクティブ・ラーニングの視点による  
ICTを活用した体育授業の実践～

### 研究内容

- ・体育授業でのICTの利活用について
- ・体育授業における「主体的・対話的で深い学び」について

### 研究成果

- ・子供たちが、知識や技能を働かせながらICTを活用することで、自己の課題の発見や試行錯誤を繰り返しながら、思考を広げたり深めたりすることができ、主体的に学習へ取り組む姿が見られた。

【主体的な学び・深い学び】

- ・動画や写真をグループで見合い、思考力・判断力・表現力を働かせる機会は、協調学習の充実につながった。

【対話的な学び】



## 外国語活動・外国語部会

単元を通じた豊かなコミュニケーションに  
つながるアクティビティの研究

### 研究内容

- ・単元を通してモジュール学習と45分授業の内容がリンクした、伝え合うことが楽しくなるアクティビティ
- ・コミュニケーションを円滑にするための効果的なICTや具体物の活用

### 研究成果

- ・単元全体での見通しをもったアクティビティを考案し、児童同士の伝え合いが充実した授業実践につながった。
- ・ICTや具体物を実生活に結びつく場面で効果的に活用することで、相手意識・目的意識が高まり、児童が主体的に豊かなコミュニケーションを図れていた。
- ・目的に応じてICTと具体物のよさを見極めて活用することが大切であるため、今後も研究を続けていきたい。



## プログラミング・STEAM教育部会

プログラミング的思考の育成  
～考えよう やってみよう 広げよう～

### 研究内容

- ・プログラミング的思考を育成する授業づくり（市・小中一貫カリキュラム以外 B分類・C分類）
- ・プログラミング教材の情報収集及び発信

### 研究成果

- ・多くの教材に触れ、各教材の特徴やよさを知り、効果的な活用方法等の協議を重ね、授業づくりに生かすことができた。（Artec理科セット、SPHERO等）
- ・戸田市プログラミング教育推進委員会との連携により各校におけるプログラミング教育推進の一助となった。



## 特別支援教育部会

配慮を要する児童への支援、  
個に応じた指導方法の工夫

### 研究内容

- ・個に応じた教材教具の工夫 ・事例研修
- ・特別支援教育におけるICT活用

### 研究成果

- ・事例研修を通して、配慮の必要な児童生徒の行動の背景を様々な視点から見つめ、具体的な支援策を模索できた。
- ・導入されたiPadの活用方法や実践事例を共有することで、支援の方法を広げることができた。今後、一人一人の特性に応じた活用方法についても深めていきたい。
- ・効果が見られた教材教具など指導方法の工夫について協議した。特別支援学級だけでなく、通常学級にも特性に応じた支援について理解を広げるようにしていきたい。



## リーディングスキル部会

リーディングスキルを育むための授業づくり  
～リーディングスキルテストの視点からの授業改善～

### 研究内容

- ・児童のリーディングスキルに関するつまずきの原因を様々な視点から検証することを通じて、効果的な手立てについて考察する。

### 研究成果

- ・リーディングスキルの視点を生かした授業づくりでは、今年度授業研究会を開催し、研究テーマに沿った協議をすることができた。またICTを活用することで、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、学びの質の向上についても協議することができた。
- ・リーディングスキルを向上させていくためには、普段の授業を見直し、当たり前を再構築していく必要性に気付くことができた。



## イノベーション・PBL部会

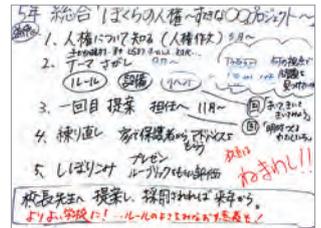
実社会とつながるPBL型授業の創造  
～未来を切り拓くイノベーターの育成を目指して～

### 研究内容

- ・戸田市PBL/STEAM教育アドバイザー 遠藤慶太郎様による、理論研修
- ・各学校でのPBL実践発表と研究協議
- ・PBL実践例の蓄積・共有

### 研究成果

- ・昨年度、イノベーション教育部会でまとめた「授業改善の3つの柱」にPBLの視点を加え、概念的理理解が深まった。
- ・各学校の多様な実践事例を知り、戸田型PBLのイメージを広げることができた。
- ・実践事例をもとに授業プランを創り出すことができた。
- ・全校で共有できるよう、市共有フォルダに実践例や授業プランを蓄積できるようにした。
- ・先生方との交流を通じ、横のつながりを強められた。



## 特別活動部会

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる児童の育成を図る指導と評価の工夫

### 研究内容

- ・児童の思考を整理する板書の可視化・操作化・構造化
- ・児童の思いや願いを生かす指導の工夫

### 研究成果

- ・話し合いで、児童が実現したいことだけでなくその理由も板書することで、一人一人が大切にしている価値をわかり合うことができ、合意形成を図ることができた。  
(クラゲチャート・思考ツールの活用)
- ・事前・本時・事後の活動で、児童が提案理由(なぜその活動を行うのか)から逸れてしまったとき、教師が適切な助言をすることでより児童の思いや願いを実現することができた。



## 夏期全体研修会

新時代に向けた学校ビジョンを描く  
～10年後の理想の未来を実現するために、  
今何をすべきか～

〈講師〉

株式会社ロジックアンドエモーション  
代表取締役  
佐々木 繁範氏

学校の先生も管理職も行政職員も垣根を越えて語り合う  
ワークショップ



## センター研究員発表会講演会

探究を促す問いをデザインするには

〈講師〉

こども国連環境会議推進協会  
事務局長  
井澤 友郭氏

探究的な問いづくりを通して  
「主体形成」が育成される  
実践的ワークショップ



## 戸田市の教育に期待すること

21世紀型スキル育成アドバイザー、戸田市PBL/STEAM教育アドバイザーの皆様から  
激励のメッセージをいただきました。



株式会社リバネス  
リバネス教育総合研究所 主席研究員

森安 康雄 様

いよいよ次年度から小学校を皮切りに新学習指導要領が実施されます。今年度も、戸田市の教員の皆さんが、市内全ての学校に整えられた先進的ICT環境をフル活用して、あらゆる教科でコンピュータを効果的に活用した新しい学びの取組を推進されております

と、学校訪問のたびに拝見してまいりました。プログラミング教育や英語教育、あるいはPBLというような今回強化される学びに関しても、多数の教員の方々が自主的に参加される研究部会等の機会を通じていち早く熱心に実践を積み重ね準備万端と言えます。

先日審査員として参加させていただいたプレゼン大会でも、子どもたちの日頃の学びの成果が十分にうかがえました。

GIGAスクール構想も稼働を始める2020年は、日本全体で学びのアップデートが行われるでしょう。戸田市教員の皆様には、その先頭に立っていることを誇りとして、より一層の実践研究を重ねられることを期待しております。



株式会社情報通信総合研究所  
ICT創造研究部 特別研究員

平井 聡一郎 様

文科省のGIGAスクール構想により、全国の自治体で教育のICT化が一気に進み中、戸田市の取組の意義はさらに大きなものとなっていくでしょう。GIGAスクール構想で大切なのは、なんの

ために整備するのかという目的意識です。それゆえ授業改革という明確な目的意識に基づく戸田市の研究が注目されます。今年のプレゼンテーション大会は、戸田市の目指すPBLが具現化したものでした。リサーチによるデータをもとに課題を見出し、解決の方向を思考し、リアルな実践レベルの解決に向け行動した学習者の姿がそこにありました。今後求められる学びには社会とのリンクが欠かせません。学習者の学びが社会から乖離しようとした時、適切な「ダメ出し」ができることは、ファシリテーターとしての教師に求められる力量でしょう。戸田のPBLのさらなる進化を期待しています。



フューチャーインスティテュート株式会社  
代表取締役  
教育ICTリサーチ 主宰  
セサミストリート・ティーチャー

為田 裕行 様

戸田市の教育に期待するのは、子供たちが生きる10年後、20年後を見据えた学校づくりです。いま、戸田市の小学校・中学校で学んでいる子供たちが社会に出て活躍するのは、10年後、20年後

です。学校には、変わりゆく社会に合わせて、さまざまなことを学べる場であり続けてほしいと思います。

令和元年末に、小中学校で1人1台のコンピュータ環境を実現すべく、GIGAスクール構想が提唱され、戸田市を視察する教育関係者も多いと思います。しかし、注目されるべきは表面上のコンピュータ環境だけでなく、その土台となっている戸田市の先生方の学び続ける文化、新しい授業づくりに挑戦し続けている文化だと思えます。何が大切なのかを忘れず、かつ10年後、20年後を見据えて、学び続け、挑戦し続けていく戸田市の教育に期待しています。



インテル株式会社  
パブリックセクター・スマートシティ 事業推進部  
教育事業推進担当部長

竹元 賢治 様

あらたな“学び”の時代が拓かれます。グローバルかつ多様化する社会の変革に求められる資質・能力の育成、特に情報活用能力育成に向けてGIGAスクール構想に基づいたICT教育環境整備が始まります。しかし、考えなければいけな

いのはこれらは単なるPCやネットワーク整備が目的ではないということです。

GIGAとは、Global and Innovation of Gateway for ALLの略です。「全ての子供たちをイノベーションと世界につながる扉の前に立たせる」という意味が込められています。求められるのは子供たち自らその扉を拓き、幸せな未来を掴むため、そのサポートとなる“学び”への変革です。先生方がとだっ子のために推進するPBLやSTEAM教育はその“学び”の中核に置かれています。子供たちの幸せな未来のため、さらなるPBL/STEAM教育への進化・深化に期待してやみません。



株式会社WIL  
シニアディレクター

遠藤 慶太郎 様

私は現在、国が主催するイノベーター人材育成事業の運営に約4年携わっておりますが、多くの社会人が、フィクストマインドセットに陥り、失敗を恐れチャレンジできない現状を目の当たりにしてきました。

今回PBL部会に参加させていただき、最も印象的だったことは、先生方ご自身がグロスマインドセットを持つとされ、試行錯誤されている姿でした。一方で、10～20年後の子供たちの目指すべき姿について悩まれているのでは、との印象も持ちました。

これからの未来は、常に自己変革し続け、また周囲に変化をもたらすことのできる人材が求められると想像します。戸田市の先生方には未来を先取りして、周囲を巻き込み、子供たちの未来のために、PBLをチャレンジしていただきたいと願っております。私も全力で支援させていただきます。

令和2年度 市研究指定等委嘱校 学校研究主題一覧（小学校）

※太字は発表予定校  
※網かけは新規委嘱校

No	学校名	研究教科等	研究主題	研究委嘱機関	委嘱期間	R2発表 予定日	発表予定年度		
							R3	R4	
1	戸田市立 戸田第一小学校	生活科・総合的な学習の時間【PBL】	PBLで開く新しい学びの創造	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
2	戸田市立 戸田第二小学校	生活科・総合的な学習の時間	つむぐ ～主体的に学び続け、他者と協働し、新たな価値を生み出すことができる児童の育成～	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	○ (カリマ ネ)	—	○	
3	戸田市立 新曽小学校	全教科	つなぐ ～カリキュラムを、人を、社会をつなぐ、資質・能力ベースの学び～	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
4	戸田市立 美谷本小学校	全教科等【PBL】	心豊かに学び合い、未来を拓く児童の育成	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
5	戸田市立 笹目小学校	リーディングスキル（全教科）	自ら学びに向かう児童の育成 ～リーディングスキル向上を目指した指導法の工夫・改善～	戸田市教育委員会	30・R1・2	12/9	—	—	
6	戸田市立 戸田東小学校	生活・総合的な学習の時間	グローバル社会でたくましく生き抜き、活躍できる児童生徒の育成 ～課題発見・解決能力と論理的思考を育成するPBLの推進～	戸田市教育委員会	R1・2・3	なし	○	—	
7	戸田市立 戸田南小学校	全教科等	通常学級における、個に応じた教育的支援を必要とする児童への支援の 在り方	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
8	戸田市立 喜沢小学校	【PBL】【STEAM】 特別活動（PBS）	未来につながる学びの創造 ～主体的・対話的で深い学びを通して～	戸田市教育委員会	R1・2・3	—	○	—	
9	戸田市立 笹目東小学校	国語	「教師が変わる・授業が変わる・子供が変わる」 ～リーディング・スキルを出発点とした、見方・考え方に着目して～	戸田市教育委員会	30・R1・2	1/28	—	—	
10	戸田市立 新曽北小学校	全教科	自分ゴト化し、挑戦する児童の育成	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
11	戸田市立 美女木小学校	国語	互いに学び合い、考えを深め、思いを伝えられる子の育成 ～正確に理解し、適切に表現できる資質・能力を育む授業を通して～	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○	
12	戸田市立 芦原小学校	総合的な学習の時間、生活科	関わり合い 学び合い 未来を拓く児童の育成 ～「コミュニティ・スクールの力」を生かした探究的な学習～	戸田市教育委員会	30・R1・2	12/11	—	—	
						発表校数	4	2	7

## 令和2年度 市研究指定等委嘱校 学校研究主題一覧（中学校）

※網かけは新規委嘱校

No	学校名	研究教科等	研究主題	研究委嘱機関	委嘱期間	R2発表予定日	発表予定年度	
							R3	R4
1	戸田市立戸田中学校	全教科等	気づき・考え・深める 特別支援教育 ～特別支援教育を科学する～	戸田市教育委員会	30・R1・2	1/29	—	—
2	戸田市立戸田東中学校	全教科等	グローバル社会でたくましく生き抜き、活躍できる児童生徒の育成～課題発見・課題解決能力と論理的思考を育成するPBLの推進～	戸田市教育委員会	R1・2・3	なし	○	—
3	戸田市立美笹中学校	全教科等	社会で活躍する人財の育成 ～NIEを軸としたカリキュラム・マネジメントの推進～	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○
4	戸田市立喜沢中学校	全教科等	疑・思・創 ～社会の一員として未来を生きていくために～	戸田市教育委員会	R2・R3・R4	なし	—	○
5	戸田市立新曾中学校	総合的な学習の時間	自ら課題を見つけ、考察する生徒の育成 ～PBLを取り入れた実践を通して～	戸田市教育委員会	R1・2・3	なし	○	—
6	戸田市立笹目中学校	全教科等	主体的・対話的で深い学びの実現を目指して ～学習過程の質的改善～	戸田市教育委員会	30・R1・2	○	—	—
発表校数						2	2	2

## その他に行われる研究一覧（令和2年度）

※網かけは新規委嘱校

No	学校名	研究教科等	研究主題	研究委嘱機関	委嘱期間	R2発表予定日	発表予定年度	
							R3	R4
1	戸二小 新曾小 美笹中	全教科等	これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラムマネジメントの在り方に関する調査研究	文部科学省	R1・2	戸二小発表	—	—
2	戸東小	音楽	実践研究協力校事業	国立教育政策研究所	R02	—	—	—
3	市教育委員会		教員の配置等に関する教育政策に関する共同研究	国立教育政策研究所	29・30・R1・2	—	—	—